

1-3

演題	立てる！歩ける！転ばない！
副題	～『ご利用者が元気になる』施設を目指して～

機能訓練
転倒事故

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ都筑

発表者名 (職種)	山下 亘 その他	都道府県	神奈川県
共同発表者	石井 浩行	住所	横浜市都筑区川和町 19-1
共同発表者		TEL	045-482-3811
共同発表者		FAX	045-482-3810
共同発表者		メールアドレス	wakataketsuzuki@wakatake.or.jp
共同発表者		URL	https://wakatake.net/category/facility/tsuzuki/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市都筑区に2023年4月に開設したユニット型の介護老人福祉施設です（入居110名、SS10名）。「職員一丸となって人を幸せにします」「人が大切にされる世の中を創ります」という法人理念のもと、日々の支援に努めています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

当施設は2023年4月に開設し、『ご利用者が元気になる』施設を目指して、ICT機器や福祉用具を積極的に導入している。また、広い機能訓練室を設け、2名のリハビリ専門職による機能訓練を提供している。LIFEからのフィードバックデータによると、当施設のご利用者は特養の中でもADL自立度が比較的高い傾向にあることが示された。認知機能や身体機能の低下が見られるご利用者の中でも、居室内を単独歩行で生活している方は少なくない。しかし、歩行が不安定なご利用者の動作を全て察知し、ケアスタッフが常に即時対応することは困難であり、転倒事故の予防は大きな課題となっていた。そこで機能訓練部門では、「立つ・歩く」をテーマに個別機能訓練や生活リハビリ、居室環境の整備等の取り組みを実施してきた。今回、これらの取り組みと転倒予防の関係性を明らかにすることを研究の目的とした。

取り組んだ課題

当施設では開設当初から、ご利用者が単独歩行され、居室やリビングでの転倒事故が散見されていた。「転倒は生活機能の低下や死亡につながる。」とされており¹⁾、転倒事故を減らすことは施設高齢者のQOL・ADLを維持において重要な課題である。そこで本研究では、転倒事故の主な要因を「立位歩行能力の低下」と「居室内移動の不安定性」と考え、以下の取り組みを実施した。

具体的な取り組み

- ① 歩行機能の維持・向上の取り組み
⇒ 個別機能訓練（「立つ・歩く」を中心に介入）
 - ・ リハビリ専門職による機能評価
 - ・ 機能訓練室や訓練機器の活用
- ② 居室内移動の安定性向上に対する取り組み
⇒ 居室環境の支援・調整
 - ・ 居室内での動線の確認や移動能力の評価
 - ・ 手すり等の福祉用具の検討、設置
- ③ ケアスタッフと連携
⇒ 情報共有（PDCAサイクルの実施）
 - ・ 生活リハビリの介入、モニタリング

- ・ カンファレンスの参加

活動の成果と評価

「立つ・歩く」をテーマとした個別機能訓練や生活リハビリに取り組むことで、ご利用者の移動能力の維持・向上に繋げることができた。同時に、居室内の環境整備や福祉用具の活用をケアスタッフと協力して取り組むことで、転倒事故の件数が減少した。身体機能や活動性の向上は、同時に歩行の機会が増すことで転倒リスクが高まることが懸念される。そのため、機能訓練だけではなく、ケアスタッフと協力し、ご利用者が生活場面において安全かつ安心して動けるよう、環境整備等を行ったことが、転倒事故の減少に繋がったと考えられる。ご利用者の転倒を予防し、QOLの維持・向上を図るためには、多職種が連携し、「できるADL」を「しているADL」に近づける支援が重要と考える。

今後の課題

- ・ 個別機能訓練と生活リハビリの連携を強化
- ・ 心身機能の変化に伴う福祉用具や環境の見直し
- ・ 導入器具のモニタリングの継続や安全管理の徹底
- ・ 手すりの設置等の環境整備が難しい場所の対応

参考資料など

日本老年医学会：
介護施設内での転倒に関するステートメント